



今回の発行で2007年3月末日11号に到達しました。  
おかげさまで1200人のみなさまの読者数に到達しました。  
これもひとえに皆様のおかげであり、本当にどうもありがとうございます。

さてそれでは第11号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

#### □□No1 タイ株初心者編です■ ■

タイと日本のFTAが4月3日に締結・署名予定だそうです。  
暫定政権のトップであるスラユット首相が4月2日から5日まで日本を訪問。  
3日に安倍首相と会談し自由貿易協定(FTA)を含む日タイ経済連携協定  
(JTEPA)に調印する予定です。  
5日には天皇・皇后両陛下と会見する予定となっております。  
タイは日本とのFTA交渉が2005年8月に大幅合意されて、  
2006年9月に署名する予定だったが、  
タイ側で軍部クーデターが起きたため調印日程が遅れていました。

今回のこの日タイ経済連携協定(JTEPA)での主な合意内容は、  
▽農産品分野でタイ最大の輸出農産品である鶏肉の関税削減  
▽エビ加工品の関税を即時撤廃0%へ  
▽工業品分野で3000CC超の完成車の関税を80%から60%に段階的に引き下げ  
▽3000CC以下は再協議を行う  
▽自動車部品の関税は11年に原則撤廃などになります。  
自動車部品関税撤廃で、タイで生産する日本の自動車メーカーの生産コストが下がる見通しです。

ブログ内でも何度も書いてきましたが  
日本側で締結しているFTA(EPA)交渉は各国で大変遅れております。

慎重に進めていると言えはいいのですがのんびりしている間に  
いつの間にかどの国にも連携協定できない関係になってしまうのも困りものです。

こちらの鶏肉の分野・エビ加工品の農業・水産分野でメリットを享受するタイ企業が  
いくつか出てくるでしょうね。自動車部品メーカーでは逆にデメリットもあるかもしれません。  
しかしトヨタのIMVプロジェクトのように現地で100%部品調達する流れが増えているため、  
大きなマイナスではないと思われます。

管理人のコメント：

およそ2年かかってようやく締結される見通しの日本タイFTA(厳密に言うとEPAですが)  
で、さらに日本とタイで貿易や人の移動に関して活発化する方向へ向かいそうです。  
こちらをきっかけに多くの分野でいろいろな動き・  
ビジネスチャンスが始まりそうで面白くなりそうです。

ただしマイナス面も顔を出しています。この条約には一部民間団体が反対しています。  
同FTAの下では、日本側からタイ側へ有害廃棄物などの輸出入関税が撤廃されるため

この同条約が施行されれば日本にある有害廃棄物がタイ国内へ流入する可能性がある」と発表したのがきっかけです。

日本の産業廃棄物がタイ国内で大量投棄されることになる可能性があるとして改善要求運動がありました。

□□N○2 タイ株上級者編です■ ■

過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 011 SCB です。○○

タイの大手銀行です。タイで資産規模第4番目の商業銀行になります。

06年末資産規模で第3位になったニュースも出ました。

682の支店をタイ国内に持っており、2800台のATMを稼働させている。

海外支店も3ヶ所(2005年末の数字)。

紫のイメージカラーで1906年に現在の王族の経営から誕生したタイ最古の商業銀行です。

SCBの主要株主はタイ国財務省、王室財産管理局。

97年の経済危機の際には公的資金の注入を受け建て直されました。

子会社には自動車割賦販売関連会社サイアム・パニット・リーシング(SPL)、

投資信託・資産運用会社SCBアセット・マネジメント、

サイアムコマーシャルニューヨーク生命保険(SCNYL)等を抱えています。

サイアムコマーシャル銀行は2006年度の決算を発表しています。

預金残高は05年比27%増の7921億バーツ、

貸出残高は22%増の7476億バーツ(不良債権比率3.4%)と言う数字でした。

06年度の営業利益は前年比21%増の254億バーツに伸びましたが

貸倒引当金51億バーツを積み増すなどした結果、最終利益は30%減の133億バーツでした。

タイの各商業銀行は上場済み銀行数13行あります。その13行の2006年通期連結決算では、貸倒引当金の積み増しで経費がかさんだことなどの影響で増益はわずか2行でした。

11行が減益で、そのうち2行が赤字転落した。

過去を見ると04年と05年は全行が黒字決算だったのですが、

06年度からは国際会計基準(IAS)39号に

準拠するため、不良債権に対する貸倒引当率引き上げを迫られ、引当金を積み増しました。

そのための必要資金をあてたために大幅減益の銀行が多かったもようです。

しかしこれにより体力の弱い銀行、強い銀行が鮮明になり、

タイの投資家、タイの経済にとって長期的には良いことにつながると見ております。

こちらの銀行わたくしもよく利用します。

バンコク市内どこでもビル内、地下鉄、BTS(高架モノレール)駅構内でもATMが多いですし、最近なぜか行員さんの愛想が良くなっています。

(タイでは各支店によってサービスの質がかなり異なりますが・・・)

とりあえずわたくしが良く行くところはサービスが迅速になり、良くなりました。

□□ No 3 タイ国内ニュース編です■ ■

今回は2つほど。

日本ではニュースとなったかどうかわかりませんが、  
3月19日のバンコク外国為替市場でバーツ相場は1ドル=34.82バーツまで上昇しました。  
34.8バーツ台は9年ぶりとなります。タイの各閣僚ではコーシット副首相、  
クルークライ商務相らが輸出競争力の低下に懸念を表明しました。  
タイ中央銀行に対して利下げを求める圧力が強まっています。

ドル・バーツのレートは勢いが止まりませんね。  
有効な手段として臨んだ06年の12月の外資規正法もほとんど効果がなく、  
ただ株価だけを落として8000億バーツを失っただけの感があります。  
ただし長期で見るとバーツドル相場は97年当時のレートへ向かいつつあるようです。

もう一つはタイ観光庁の発表です。  
2006年にタイ国へ訪れた外国人旅行者数は  
2005年比で20%増の1382.2万人と大幅に増加しました。2005年訪問旅行者数は  
年初発生したインド洋大津波の影響で落ち込んでいたのが回復した結果のようです。

来訪者国&地域別トップは  
隣国マレーシアで15.8%増の159.1万人  
次いで日本が9.6%増131.2万人  
韓国33.9%増109.3万人  
中国22.2%増94.9万人  
アメリカは8.5%増の69.4万人  
オーストラリア28.2%増55万人  
インド20.5%増46万人  
ロシアは82.6%増の18.8万人と急伸しました。

経済成長が加速しているインド・ロシアでは  
大幅な増加です。バンコクでもこないだ訪問した観光地でも  
インド人のかたを良く見かけるようになりました。  
ロシアの旅行者はパタヤなどに長期で滞在するケースが多いようです。

しかしパタヤなどでは深夜遅くまで危険な事件に巻き込まれるニュースも出ていました。  
日本人の方もどうかこのあたりは日本と環境が違うと言うのを覚えておいていただければと思います。

□□No 4 追伸です■ ■

>>>1>>>

さて、わたくし事ながら、お知らせでございます。

4月16日月曜日東京都内各書店にてタイ株の各企業の銘柄を解説・データを掲載した  
「タイ株完全マニュアル企業情報編41社」を出版することになりました。

名前はこれで決定でございます。

出版元は「パンローリング社」になります。  
書籍の価格は少し高めの、税込 1,890 円になりました。

この本では初版本をご購入いただいた方には素敵なプレゼントがございます。  
そこで「アマゾンキャンペーン」を行います！

<http://thaikabu.net/amazon.php>  
(注意！ 4月8日(日曜限定)でございます！)

銘柄レポートとしてさらに詳しい企業情報さらにダウンロードできるキャンペーンを  
その一日だけ受け取る事が可能です。

実施予定日は4月8日を予定しております。  
4月8日一日限りにアマゾンからお申し込みいただければ無料レポートを  
受け取ることが可能でございます。

現在 BRIC s を始めとして新興国株の人気の高まりつつありますが、  
実はタイと言う国はまったくもってまだ関心の度合いが低いままです。  
先行してこちらの本を読んでいただく事で、タイの経済、タイの株式を事前に知っておくと  
周りよりも一歩進んだ海外投資ができるようになります。  
ぜひ、ご検討いただければ幸いです。

>>> 2 >>>

続いて タイ株セミナー4月15日(日)の続報です。

詳細はこちらになります。  
<http://www.financialacademy.jp/seminar/1267.html>

- ◎ 海外投資のメリットとはどんなことがあるのか？
- ◎ その中でも東南アジア諸国連合 ASEAN の中心国タイってどんな国なのか？
- ◎ ASEAN は今後どう発展していくのか？
- ◎ タイと各国の FTA・EPA の進捗具合、メリット&デメリットはどのようなものが？
- ◎ 2006年度のタイ経済を振り返って数々のポイントを解説！
- ◎ そして暫定政権が今後行うスケジュールは？
  
- ◎ 今後経済大国へ向かう中国と人口急増国家インドに挟まれた ASEAN とタイはどう進むのか？
- ◎ 2006年度後半 インド株・香港株、ベトナム株、は最高値を更新、  
タイ株はどう動いたのか？
- ◎ 2007年のこの時点でタイ株投資をするメリット・デメリットとは？
- ◎ タイ株をどうやって取引するのがよいのか？  
またその開設方法はどうすればよいのか？

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120  
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

- ◎ タイの政治・文化は日本とどう違うのか？
- ◎ タイ側から見た日本はどう映っているのか？

後半は各セクターごとの解説と個別銘柄の詳細を話していきます。

正直、証券会社のセミナーではないので  
「この銘柄を推奨します」「この会社の銘柄は確実に来ます！」  
と言うセミナーではありません。

「上がる銘柄だけ教えてください！」  
と言う質問には正直返答に困ります。

ほかの方がまだ取り組んでいないタイ株をより詳細に知りたい方、  
実際取引した経験を聞きたい方にはうってつけのセミナーになります。裏話満載です。

実際にタイ株取引を3年近くしている人間が語る情報を凝縮して  
学べる貴重な機会だと思いますので  
ご関心ある方はぜひホームページをのぞいてみてください。

<http://www.financialacademy.jp/seminar/1267.html>

さて今回も最後までお読み頂きまして有難うございました。

>>> 3 >>>

さて有料会員向けのサービスをご検討されている方にご連絡でございます。  
現在もうすでに多くの会員の方にタイ株の詳細データを  
6ヶ月間にわたってお送りしております。

ただし、送料込みにしていた影響でパーツ高の影響もあり、  
今回から新規に申し込みをいただく方には値上げを行う予定にしました。  
(すみません・・・正直赤字ぎりぎりで行ってましたので・・・)  
現有料会員の方は変更致しません！

しかし急な値上げもひどい話なので銀行振り込み側：6ヶ月申し込み(右側からクリック)  
からのお客様ではご相談に応じます。  
4月中にお申込いただければ、既存会員の方と同じ料金に適応させていただきます。

大変申し訳ございませんが、ご了承のほどどうぞよろしくお願いいたします。

いますぐ検討される方はこちらをクリック。  
<http://thaikabu.net/>

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120  
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

